第　学年　生活科学習指導案（例）

日　時　令和○年○月○日

場　所　○○○○

指導者　○○　○○

１　単元名

（例）いきもの　大すき　内容（７）「動植物の飼育・栽培」　内容（　）「　　　　　　　　　」

◇複数の内容で単元を構成する場合は、全て記入する。（学習指導要領解説生活編P87　）

２　単元の目標（一つの内容で単元を構成した場合と、複数の内容で単元を構成した場合）

教科の目標や学年の目標を踏まえ、一連の学習活動の「まとまり」としての単元の中で、児童が直接関わる学習対象や実際に行われる学習活動を示すとともに、そこで育成を目指す「思考力、判断力、表現力等の基礎」、「知識及び技能の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」を具体的に記述する。

1. モルモットを飼育する活動を通して、モルモットの変化や成長の様子に関心をもって働きかけ、モルモットに合った世話の仕方や生命をもっていることや成長していることに気付き、モルモットへの親しみをもち、生き物を大切にすることができるようにする。（１内容１単元）
2. 秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、秋とその他の季節との違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりすることができ、秋の自然の様子や夏から秋への変化、それを利用した遊びの面白さに気付くとともに、季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりすることができるようにする。（２内容１単元）

【単元の目標を作成する手順】

1. 単元を構成する内容について、学習指導要領第２章第５節「２　内容」に示された記載事項を確認する。
2. ①と具体的な学習対象や活動に即して、単元の目標を作成する。

※複数の内容で単元を構成する際は、「２　内容」に示されたそれぞれの資質・能力を記載する。

３　単元設定の理由

【児童の実態】【教材について】【指導について】　等をそれぞれ分けて記入する。

※「指導について」は、学習指導要領解説生活編（平成29年７月）第５章「指導計画の作成と学習指導」に示された内容を参考にする。特に、「学習指導の特質（同解説P74）」「第３節　単元計画の作成（同解説P87）」「第４節　学習指導の進め方」が重要である。

　（１）児童の実態

単元を構想し、構成する際には、児童の興味・関心を把握することが必要である。日常生活において、児童はどのようなことに興味を抱いたり関心を寄せたりしているのか、どのような学習を志向しているのか、それらを具体的に捉え、児童の立場から単元を構成する。

　（２）教材について

学習材や学習対象に関わる児童の姿を想定して、教材がもつ可能性を分析し見出すことが大切である。

児童の思いや願いが高まる可能性のある対象を選定し、学習材のよさが引き出されるようにすることが大切であるため、その教材のもつ価値等について分析し、児童のとの関わりを踏まえて記述する。

　（３）指導について

生活科においては、一連の学習活動の「まとまり」としての単元の中で、体験活動と表現活動とが繰り返されることで児童の学びの質を高めていく。活動や体験を行うことが前提ではあるが、見方・考え方を生かして、低学年らしい思考や認識や意欲等を確かに育成し、次の活動へつなげる学習活動を重視する必要がある。例えば、以下の①～④の学習過程を基本にして、単元にふさわしい展開をつくることが重要である。

①思いや願いをもつ②活動や体験をする③感じる・考える④表現する・行為する（伝え合う・振り返る）

４　単元の評価規準（小単元における評価規準）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| （例） | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 単元の  評価規準 |  | | 【単元の評価規準を作成する手順】  （１）単元の目標を確認する。  （２）単元の目標に示された資質・能力を踏まえ、単元の評価規準を作成する。 |  |
| 小単元における  評価規準 | １ | ① | ①  （３）学習指導要領解説において、「内容に関する資質・能力の記載事項」を確認するとともに、「具体的な内容のまとまりごとの評価規準（例）」を参考に、小単元の評価規準を作成する。  ※単元全体を俯瞰し、評価の観点や評価の場面に偏りがある場合は、必要に応じて単元計画や評価規準等の見直しを行うようにする。  ※「具体的な内容のまとまりごとの評価規準（例）」は、国立教育政策研究所から示される参考資料に掲載される予定である。 | ① |
| ２ | ② | ② | ② |
| ３ | ③ | ③ | ③ |

生活科では、特定の知識や技能を取り出して指導するのではなく、児童が具体的な活動や体験を通す中で、あるいはその前後を含む学習の過程において、文脈に即して学んでいく。このことから、評価は、結果よりも活動や体験そのもの、すなわち結果に至るまでの過程を重視して行われる。学習過程における児童の「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」を評価し、目標の達成に向けた指導と評価の一体化が行われることが求められている。そのためにも単元の目標を明確にするとともに、評価計画を立て、評価規準を具体的な児童の姿として表しておくことが大切である。

＜育成を目指す資質・能力を踏まえた評価規準作成のポイント＞

　評価規準を作成する際には、評価の観点に即して、以下のポイントに留意する。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| １）気付きが自覚されること、  ２）個別の気付きが相互に関連付く  こと  ３）対象のみならず自分自身につい  ての気付きが生まれることを気付きの質の高まりとして見とることが大切。  ＜知識に関する評価規準（例）＞  ・評価規準の構造を「○○に気付いている」、「○○が分かっている」などとして作成する。  ※○○には、知識の具体を記述。  ＜技能に関する評価規準（例）＞  ・評価規準の構造を「△△において（の際）、○○している」などとして作成する。  ※△△には学習活動を、○○には学習指導要領解説生活編（P14）に示した習慣や技能を参考にして、具体を記述する。 | ①見付ける、②比べる、③たとえる、などと示された分析的に考えること、④試す、⑤見通す、⑥工夫する、などと示された創造的に考えることを踏まえる必要があることに留意する。  ・評価規準の構造を「○○して（しながら) 、△△している」などとして作成する。  ※○○には、具体的な学習活動において期待する思考を、△△には具体的な児童の姿を記述する。  ※思考を具体的に表したものや、具体的な児童の姿は、以下も参考にすることができる。 | １）「粘り強さ」…思いや願いの実現に向かおうとしていること  ２）「学習の調整」…状況に応じて自ら働きかけようとしていること  ３）「実感や自信」…意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとすることを繰り返し、安定的に行おうとしていること等を踏まえる必要があることに留意する。  ・評価規準の構造を「○○し、△△しようとしている」などとして作成する。  ※具体的な学習活動に即して、○○には①粘り強さ、②学習の調整、③実感や手応え、に関して具体的に表したものを、△△には具体的な児童の姿を記述する。 |

【思考・判断・表現における、思考を具体的に表したものの例】

① 見付けて（見付けながら）

・思い起こして、感じて、気にしながら、意識しながら など

② 比べて（比べながら）

・特徴でまとめながら、違いで分けて、順序を考えながら など

③ たとえて（たとえながら）

・知っていることで表しながら、関連付けながら、置き換えて、見立てて など

④ 試して（試しながら）

・実際に確かめながら、調べたりやってみたりして、練習しながら など

⑤ 見通して（見通しながら）

・思い描きながら、予想しながら、振り返って など

⑥ 工夫している（工夫しながら）

・生かしながら、見直して など

【具体的な児童の姿として考えられるものの例】

・観察している、関わっている、記録している、方法を決めている、表している、集めている、楽しんでいる、遊んでいる、交流している、捉えている、知らせている、利用している、伝え合っている、計画を立てている

など

５　指導と評価の計画（　　時間）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 小単元名  （時数） | ねらい・学習活動 | 評価規準 | 評価方法 |
| 小単元名を記入する。  （時数） | 具体的な学習活動の内容を記入する | ３観点のいずれなのかを記入する。  （例）  【知】①【思】①  【態】①　など | 具体的な評価方法を記入する。  （例）  ・観察カード  ・発言分析  ・行動観察　　など |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

◇指導と評価の計画では、内容と育成を目指す資質・能力、児童の興味・関心を基に中核となる学習活動を設定する。活動内容や時間数、学習過程をより具体的に記述するとともに、それぞれの活動における指導のポイントや関連する教科等の学習内容、評価規準等についても示すことが求められる。

◇「４　単元の評価規準」とは別に作成する。

◇本時がどこかわかるように（本時）と記入する。

※「主な学習活動」においては、内容と育成を目指す資質・能力、児童の興味・関心などを基に中核となる学習活動を設定する。活動内容や時間数、学習過程をより具体的に記述するとともに、それぞれの活動に求められる指導のポイントや関連する各教科等の学習内容、評価規準等についても示すことが考えられる。

※単元を構想する際の３つの段階を考慮する。

（発想する段階、構想する段階、計画する段階　学習指導要領解説P88）

※生活科で単元を構成する際には、体験活動が質的に高まっていくことを大切にする。単に活動や体験を繰り返すのではなく、話合いや交流、伝え合いや発表などの表現活動が適切に位置付けられることが大切になる。この体験活動と表現活動の相互作用が学習活動を質的に高めていくことにつながる。

※例えば、①～④の学習過程を基本として、単元にふさわしい展開をつくるようにする。

①思いや願いをもつ　②活動や体験をする　③感じる・考える　④表現する・行為する（伝え合う・振り返る）

（学習指導要領解説P90）

　学習過程は、①～④がいつも順序よく繰り返されるものではなく、順序が入れ替わることもあるし、一つの活動の中に複数のプロセスが一体化して同時に行われる場合もあることに留意する。

６　本時の展開（○時間／○時間）

1. 本時のねらい
2. 展開（○○分）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 学習活動（◇） | 時間 | 教師の指導・支援 | 評価規準【　】　評価方法〔　〕 |
| ◇具体的な活動を記入する。 |  | ○主な学習活動に即した教師の指導や支援を記述する。 | 【評価の観点を記入する。】  〔具体的な評価方法を記入する。〕  本時の課題やめあてを記入する。 |

◇記号等（◇・○・【　】・〔　〕）は例示である。

※設定した評価規準における具体的な児童の姿を想定することが本時の評価規準のポイントとなる。例えば，

・おもちゃを改良する方法について、友だちのおもちゃと比べたり、動きの原因や仕組みを見付けたりしながら、アイデアシートに書き込んでいる。　など